

ポリウレタン樹脂は、合成皮革やボンディング加工布、コーティング加工布などに使用されており、外観上は変化していないように見えても劣化が進行していることがあります。今回は、コーティング加工布の例として、バックコーティングに使用したポリウレタン樹脂が劣化して剥離した事例を紹介いたします。

素材特性に注意

監修／クリーニング総合研究所

衣類の状態

利用者から、全体各所が白く抜けたようになっているとのお申し出があったもの。

外観は、生地が透けたようになっていいる。外からは確認できないが、生地の裏側はポリウレタン樹脂でコーティングされている。

長期の使用の間に空気中の水分などによる作用を受けることや、クリーニング処理の繰り返しなどで劣化したことにより、部分的に剥離したもの。

事故の防止対策

ポリウレタン樹脂の経時的な劣化は避けることができないため、抜本的な防止策はない。

ポリウレタン樹脂は空気中の水分による加水分解などにより、通常2〜3年で劣化することが明らかになっており、クリーニ

原因

バックコーティングに使用されているポリウレタン樹脂が、

バックコーティングに使用されているポリウレタン樹脂が、

ポリウレタン樹脂加工製品全般に対する注意事項

コーティング加工は、織物や編物の基布にポリウレタン樹脂などを塗布して皮膜を作ったもの。

合成皮革を含め、コーティングやボンディングなどのポリウレタン樹脂加工製品全般に対しては、次のような配慮が求められる。

・取扱い表示などを参考に、洗える製品かどうかを確認する（水洗い、ドライクリーニングのいずれも不可を表示している製品がある）

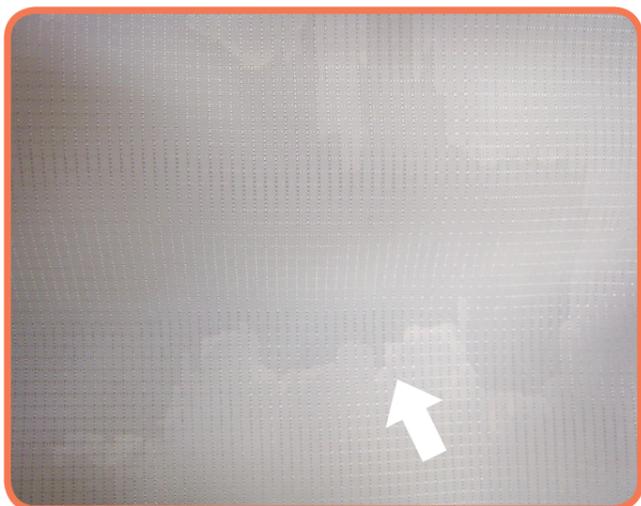
・汚れが付着しやすく、かつ、着用摩擦を受けやすい生地の折返し部分、袖口、裾回り、衿回り、脇下などに異常がないかを確認する  
（汚れが樹脂の劣化を促進し、着用摩擦で剥離、脱落が生じていることがある）

・べとつきなどの兆候があるものは剥離等の生じる可能性が強いため、クリーニングできないことを利用者に伝え、お断りすることが望ましい

・製品を製造してから2年以上経過している場合には購入の時期に関係なく劣化が進行しており、クリーニング処理で剥離が生じる可能性のあることを利用者に伝える



バックコーティングが施されたブルゾン。バックコーティングは透湿防水やダウンの吹き出しを防止するために使用されていることが多い



ポリウレタン加工樹脂が劣化し、波状に生地が透けたようになっている

- 品名…ブルゾン
素材…表地：ポリエステル100%
裏地：キュブラ、ポリエステル
中わた：ダウン95%、フェザー5%

※コーティング加工やボンディング加工に使用されているポリウレタン樹脂は、組成表示の対象になっていない（この事故品は該当表示なし）。ただし、ポリウレタンを使用していることを示す表示がされている場合もある。

- 取扱い絵表示…
処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブル乾燥